

## 82 だい にち ほう とう 大日宝塔



指 定 市有形文化財 昭和58年 3 月 25 日  
所 在 地 三 分  
所 有 者 遍 照 寺



三分岩崎山の大日岩と呼ばれるところに、大日如来の石像を納めた石像宝塔など大小4基が建てられている。大塔は1基で寛永8年（1631）、小塔3基のそれぞれには寛永10年（1633）の刻銘が残されている。

大塔の規模は、総高2.25m、塔身は高さ86cm、幅68cmの方形である。笠や宝珠なども重厚で、実に堂々たる大石造物である。

塔身内には、大日如来の座像（像高約55cm）が安置されている。

小塔は総高1.18m、塔身高48cm、幅40cmの方形、塔身内には不動明王や愛染明王などがそれぞれ納められているものとされている。

なお三分村の古地図によると、今は残っていないがこの場所に大日堂と示した木造堂が描かれている。江戸時代の初期に、老朽化した大日堂を再建する際、この大石造宝塔にしたものと考えられている。